

# ほっこり わくわく 民話の旅にでかけよう!!!

## ～ 歴史との違いから魅力を探る ～

狭山の民話を広めるプロジェクト チームリーダー 横山 美衣

『歴史』を広辞苑で調べてみると、こう書かれている。

- ① 人類社会の過去における変遷・興亡の記録。
- ② 社会の変遷・興亡の次第。物事の現在に到る来歴。

では『民話』は？ →民間に伝承された伝説や説話 とある。

もう少し解体して比べてみよう。

歴史は、事実と証明できる根拠が必要なために、その証明に莫大な費用や時間をかけ、記録が残っているものを中心に検証された人類社会の足跡である。社会全体を鳥瞰図的に把握し、それを形作ってきた重要人物や事象を、時系列に私見を交えずに組み立てて行く。

一方民話は、事実であるかどうかは重要ではなく、語り手の思い込みや空想が混じっていても良いし、長い年月を経た結果、大袈裟な表現になったり、勘違いして伝えたり、記憶の隅の曖昧な歴史観を加えたりしても何ひとつ問題はない。

内容は、宇宙や神の世界であったかと思えば、個々人の思いであったり、永遠の時の流れであったかと思えば、ほんの一時の出来事であったり、その時々々の教訓や娯楽、井戸端会議や噂話、更には祈りやほとぼしる願いなど、何の枠にもとらわれる事無く、言いたい部分だけを切り取って自由に語り継がれてきた。

しかし不思議な事に、だからこそ(なのか)、その時々を精一杯暮らしてきた人々の「素顔」がより鮮明に見える。お大名が脇役で、隣のばあちゃんや向いの権兵衛さんが主役に抜擢され、架空の動物や神様が同じ重みで登場する。おじぞうさまが動き、犬が喋る。

そう、実に自由で、登場する全てのキャラクターが、例え死にそんな蛙であっても、生き活きとした鼓動を響かせ、喜びや迷いや様々な感情が闊歩する。

大笑いする声も、苦しみのうめきも間近に聞こえる。

清らかさと愚痴が混在する。

全くもって、テレビドラマよりもはるかに面白い。

ここ狭山には、そんな民話が、市内のいたるところで出番を待っている。さあ、皆で民話の旅に出かけよう!!

今、私達が忘れかけている「ほっこり」と「わくわく」が、民話の中にはたくさん詰まっているのだから……



奥富で地藏尊の話聞く

\*文団連では、参加者を募って『民話めぐりウォーキング』を実施する予定です。

詳細が決まりましたら、本会報などでご案内いたします。

\*また、幼稚園・児童館・各施設など、民話の語りをご希望の場合は、お気軽にご相談下さい。

お問合せ先 狭山市文化団体連合会 (090-6162-1662)